

謝辞

まず初めに、本研究に対して科学研究費の援助を頂いたことに対して、厚くお礼申し上げます。

本報告書の第2章に関連する、スパイク H タンパク質の認識におけるリポ多糖脂質部分の寄与に関する研究は、三重大学生物資源学研究科の加藤宗春君、若嶋裕人君が修士論文研究の一部として行ったもので、本研究において、多大な貢献をしてくれたことをここに記すと共に、加藤君および若嶋君に心からお礼申し上げます。

本報告書の第3章に関連する、スパイク H タンパク質の結晶化条件の検討に関する研究は、三重大学生物資源学研究科の川端章世さんが修士論文研究の一部として行ったもので、本研究において、多大な貢献をしてくれたことをここに記すと共に、川端さんに心からお礼申し上げます。

本報告書の第4章に関連する、バクテリオファージφX174のHタンパク質におけるプロテアーゼ耐性ドメインの特定とLPSとの相互作用解析に関する研究は、三重大学生物資源学研究科の秋田総理君が修士論文研究として行ったもので、本研究において、多大な貢献をしてくれたことをここに記すと共に、秋田君に心からお礼申し上げます。

本報告書の第5章に関連する、スパイク H タンパク質によるリポ多糖認識におけるトリプトファン残基の機能解析に関する研究は、三重大学生物資源学部の餅原大祐君が卒業論文研究として行ったもので、本研究において、多大な貢献をしてくれたことをここに記すと共に、餅原君に心からお礼申し上げます。

本報告書の第6章に関連する、スパイクタンパク質HとGによる認識におけるリポ多糖負電荷残基の寄与に関する研究は、三重大学生物資源学研究科の上総素子さんが修士論文研究として行ったもので、本研究において、多大な貢献をしてくれたことをここに記すと共に、上総さんに心からお礼申し上げます。

本報告書の第7章に関連する、バクテリオファージ由来スパイクGタンパク質5量体及びその製造方法に関する研究は、三重大学生物資源学研究科の大江健介君が修士論文研究の一部として行ったもので、本研究において、多大な貢献をしてくれたことをここに記すと共に、大江君に心からお礼申し上げます。

その他、三重大学生物資源学研究科・生理活性化学研究室の修士・学士の学生諸君にお礼申し上げます。また、研究環境を提供して頂いた三重大学と研究活動をサポートして頂いた職員の方々にお礼申し上げます。